

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
<input checked="" type="checkbox"/> 有	環境フェアの単独開催中止
<input type="checkbox"/> 無	

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	市民協働活動推進事業(主要事業)							
1-2 担当	部	市民部	課 又は施設	環境課	係	環境保全係	評価票作成者	環境課環境保全担当係長 加藤 徹
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	総合的な環境施策の推進	コード	1 1 1
					単位施策(中)	環境情報の発信と環境学習の推進	コード	1 1 1 3
	項	環境保全			単位施策(小)	市民協働による環境保全活動の推進	コード	1 1 1 3 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	環境に興味のある市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	環境学習の場の創出を市民と協働できるようにする。			
1-5 事務事業の内容	環境フェアの開催、環境学習の場を市民と協働で設ける。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	18年度より環境フェアが豊明まつりに組み込まれたため、埋没しないようにした。	環境学習の需要は増大しつつある。		環境学習への関心は増大しつつある。	
	平成19年度	豊明まつりで少ない経費で最大限の効果がでるようにした。	"		"	
	平成20年度	豊明まつり会場で、市のボランティア職員と同様に活動した。	市民協働意識が市民に定着しつつあり、環境保全活動に対し関心が増大しつつある。		COP10の開催決定により、環境問題に関心が寄せられている。	
	平成21年度	豊明まつりへの参加を中止したので、他の取組を模索した。	環境学習の需要はあるが、拡大傾向にない。		COP10の開催が市民に浸透していない。	
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	環境フェア参加者数(人)		5,000(人)	8,000(人)	環境イベントに対する市民意識度を示す指標

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(人)	3100(人)	2000(人)	1000(人)	0						
	直接事業費 b(千円)	0	0	0	0						
	人件費 c(千円)	13	13	0	0						
	合計コスト d(b+c)(千円)	13	13	0	0						
	単位コスト d/a(千円)	1人当たり 0.004	1人当たり 0.006	0	1人当たり 0	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 活動実績...豊明まつり生活部会(環境課)参加者数。直接事業費...事務経費。人件費...職員(時給単価*2H分)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	3,100	2,000	1,000	0						
	後期目標値に対する達成度(%)	38.8	25	12.5	0						

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		B	B	B	D						

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価																																
	平成18年度	豊明まつりに埋没することなく、独自色を出せるようにする。	環境フェアらしい企画を立てる。	中央公民館ホールのアスベスト除去工事で、会場が勤労会館の部屋で狭かったが、限られたスペースの中で、行うことができた。	平成19年度	豊明まつりが縮小される見通しであり、発表の機会がなくなる可能性がある。	豊明まつりの中で、生活部会が中止になっても発表の場を持つようにする必要がある。	中央公民館ホール(生活部会)にて、環境課の最新の取り組み状況を発表できた。	平成20年度	豊明まつりが市民による手作りまつりになるため、そこでの活動は市民協働の観点から実施する必要がある。	市民協働の視点に立脚した計画を立案する。	ボランティアでまつりに参加し、最低限の環境課の取り組みを発表できた。	平成21年度	豊明まつりに環境課独自の提供ができなかった。	豊明まつりの中で、独自の発表の場を持つようにする必要がある。	環境課の取り組みを発表の工夫が必要。	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度		

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	B	豊明まつりに埋没しない環境保全活動を実施するも参加人数が少なかった。実施手法の見直しを考慮すること。	
平成19年度	B	事業の手法を検討し、参加者の増加に努めること。	
平成20年度	B	現在の手法を改め、市民協働型の事業へと転換し、参加者が増加するようにすること。	
平成21年度	B	環境フェア以外で環境学習の場を創出できないか検討すること。	
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			